



筑紫女学園大学リポジット

Les relations entre le Monde primitif de Court de Geblin et les oeuvres de Nerval

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 間瀬, 玲子, MASE, Reiko メールアドレス: 所属:
URL	https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/254

クール・ド・ジェブランの『原始世界』と ネルヴァルの作品の関連性

間 瀬 玲 子

Les relations entre *le Monde primitif* de Court de
Géblin et les œuvres de Nerval

Reiko MASE

I. 序

18世紀フランスの碩学クール・ド・ジェブラン Court de Géblin の『原始世界』*Le Monde primitif* は19世紀のフランス人作家ネルヴァルの愛読書として知られている。しかしこの『原始世界』は容易に入手できる本ではないので、先人の研究に記載された事項を信じるしかなかった。先般フランスの国立図書館の電子テキストプロジェクト Gallica に収録されることにより、簡単に入手できるようになった。本論文では従来ネルヴァルが影響を受けたとされる『原始世界』の箇所を検討し、その影響関係を検証することを目的とする。

II. クール・ド・ジェブランについて

19世紀に発行された『19世紀ラレーズ百科事典』*Grand Dictionnaire universel du XIX^e siècle* には Court de Géblin に関してかなりの行数を割いている。それによると彼は1728年に南フランスのニームに生まれ、1784年にパリで亡くなった。スイスのローザンヌで父の指導のもとで神学を学び、父の死後パリに定住した。この百科事典の中で『原始世界』に関してどのように記述しているのだろうか？ その箇所だけを引用してみよう。

Court de Géblin s'occupa de vastes recherches sur l'antiquité et sur l'ensemble des connaissances humaines, des mythologies et des civilisations. Après vingt ans de travaux, il commença l'exposé de ses idées et de son système dans un ouvrage intitulé: *le Monde primitif, analysé et comparé avec le monde moderne*, dont il parut 9 vol, de 1775 à 1784, et qui resta inachevé.⁽¹⁾

クール・ド・ジェブランは古代と人文学的知識、神話学、文明の全体に関する広大な研究に従事した。20年間この仕事に従事した後『現代社会と比較し、分析した原始世界』と題した著作の中で彼の考えと体系の発表を始めた。それは1775年から1784年にかけて9巻として刊行されたが、未完のままであった。

現代の百科事典でもクール・ド・ジェブランの項目がある。そこでも彼の主要著書が『原始世界』であると明記されている⁽²⁾。

クール・ド・ジェブランの父はアントワーヌ・クール Antoine Court という名前であり、『19世紀ラルース百科事典』において一項目として記述されるような人物であった⁽³⁾。父はプロテスタントの牧師として有名な人物であり現代の百科事典にもその名前が掲載されている⁽⁴⁾。この父の著作が現代でも容易に入手できることから、かなりの人物であることが推察できる⁽⁵⁾。父アントワーヌ・クールが行った仕事は、改革派教会の建て直しであった。それに対して息子は最初父の教えを受けたが、その後の仕事は父のそれとはかなり異なるものであった。

Ⅲ. 『原始世界』について

クール・ド・ジェブランが残した『原始世界』とはどのような作品だったのであろうか？ 本論文の序文で述べたようにフランス国立図書館の電子テキストプロジェクト Gallica に収録されている。本の形としては9巻であるが、電子テキストとしては13のファイルが収録されており、ダウンロードできるようになっている⁽⁶⁾。1巻だけが5つのファイルにわかれているので、13のファイルとなる。各々の巻の題名とファイルの枚数を記載してみよう。各巻の題名も本の題名と同様に非常に長いので、重要な単語だけを記載した。なおページ数は実際の本のページ数ではなく、あくまで電子テキストのファイル（PDF ファイル）をA4版で印刷した時の枚数である。枚数を記載する目的はこの著作がいかに膨大であることを示すためである。

1巻	Monde primitif, analysé et comparé avec le monde moderne...	3巻 (図版)
1巻	Plan général et raisonné...	108ページ
1巻	Allégories orientales...	287ページ
1巻	Du génie allégorique et symbolique de l'antiquité	181ページ
1巻	Lettre à l'auteur anonyme...	83ページ
2巻	...Grammaire universelle et comparative	711ページ
3巻	...Origines du langage et de l'écriture	581ページ
4巻	...l'histoire du calendrier	675ページ
5巻	...Dictionnaire étymologique de la langue française	754ページ
6巻	...Dictionnaire étymologique de la langue latine	709ページ

7 卷	...Dictionnaire étymologique de la langue latine	826ページ
8 卷	...Dissertations mêlées	707ページ
9 卷	...Dictionnaire étymologique de la langue grecque	778ページ

訳

- 1 卷 分析され、現代社会と比較された原始世界 (略)
- 1 卷 全体的かつ体系的な計画 (略)
- 1 卷 東洋のアレゴリー (略)
- 1 卷 古代のアレゴリーや象徴の特性について
- 1 卷 匿名の著者への手紙 (略)
- 2 卷 (略) 普遍的かつ比較に基づく文法
- 3 卷 (略) 言語と表記法の起源
- 4 卷 (略) 暦の歴史
- 5 卷 (略) フランス語の語源的辞書
- 6 卷 (略) ラテン語の語源的辞書
- 7 卷 (略) ラテン語の語源的辞書
- 8 卷 (略) 種々の小論文
- 9 卷 (略) ギリシャ語の語源的辞書

以上が刊行された『原始社会』の各巻の題名の一部である。繰り返しになるが各巻の題名は言葉の繰り返しが多いためですべて記載しても煩雑なだけである。重要な単語だけを記載した。この作品に関しては前述の『19世紀ラルース百科事典』には次のような説明が書かれている。

Le plan était immense, et d'Alembert doutait que quarante savants pussent l'exécuter. Interprétation des mythologies, mécanisme de la parole, filiation des langues, existence d'une langue primitive, recherches des etymologies, etc., tels sont les nombreux objets dont l'exposition et la discussion devaient composer cet immense ouvrage, qui ne répondit pas d'ailleurs à l'attente universelle. L'auteur interprétait les mythes anciens dans le sens de l'allégorie.⁽⁷⁾

計画は広大であった。そしてダランベールは40人の学者でもそれを仕上げることができるかどうか疑っていた。神話学の解釈、言葉のメカニズム、言語の系統、原始言語の存在、語源の研究など。これらが数多くの目的であり、その説明と議論はこの広大な著作を作り上げなくてはならなかったが、その著作はそもそもすべての期待には答えなかった。著者は寓意の意味において古代の神話を解釈していた。

以上は19世紀の百科事典における評価である。この百科事典におけるクール・ド・ジェブランに割いた字数はかなり多いほうである。その項目の中でとりわけ『原始社会』に関する記述は長いと言える。しかしその評価には辛口の側面がある。当初の計画は広大なものであった。すでに述べたように膨大な量の作品であることは事実である。しかし計画と残された作品を比較すると、合致しない部分があるのだと思われる。

IV. 『原始世界』 第1巻の人種の問題

それでは具体的にネルヴァルの作品においてクール・ド・ジェブランの『原始世界』の影響を受けていると考えられる箇所を検証してみよう。

ネルヴァルは1845年8月25日付けの『プレス』紙 *La Presse* に「夏の芝居」*Spectacle d'été* と題する記事を発表した。

Cuvier n'a point poussé son hypothèse jusqu'aux races humaines, ses idées religieuses le lui défendaient d'ailleurs, c'est dans les philosophes, tels que Fabre d'Olivet et Court de Gebelin, que l'on trouve établie la doctrine des races humaines diversement colorées comme originaires de telle ou telle partie du globe.⁽⁸⁾ (ネルヴァルはこの記事では Gebelin と表記している。)

キュヴィエは彼の仮説を人種まで押し進めなかった。そもそも彼の宗教的考えのせいでそのことをすることができなかった。ファールブル・ドリヴェエやクール・ド・ジェブランのような哲学者の中に地球上のこれこれの地域の生まれとしてさまざまな肌の色をした人種の学説が確立されているのを見出す。

この新聞記事に対してプレイヤッド版の編者は次のような注目すべき注をつけている。

Dans le *Monde primitif, analysé et comparé avec le monde moderne*, (...) Court de Géblin ne se prononce pas clairement sur cette question, bien qu'il ait annoncé dans son Plan général qu'il allait la traiter (voir t.I, p.77; rappelons que le *Monde primitif* est un ouvrage incomplet).⁽⁹⁾

『分析され、現代社会と比較された原始世界』の中で、クール・ド・ジェブランはこの問題（人種の問題）について明確に意見を表明していない。それは彼が全体的な計画（『原始世界』第1巻）の中でその問題をこれから取り扱うと予告しているにもかかわらずである（1巻77ページを見よ。『原始世界』が未完の書物であることを思い出すことにしよう）。

そこでプレイヤッド版の編者が指摘している『原始世界』 第1巻の所定のページを見てみよう。

Nécessité de l'analyse des Langues pour éclaircir l'Histoire des Peuples et pour découvrir leur origine ⁽¹⁰⁾

国民の歴史を明らかにし、その起源を明確にするための言語の分析の必要性

という題名が書かれている。この巻はあくまで全体的な計画を述べたものであって、具体的な記述は少ない。よってクール・ド・ジェブランが人種の問題を掘り下げて書いているわけではない。ただしその上記の引用の数ページあとで次のような項目がある。

Premier objet géographie ⁽¹¹⁾

最初の目的 地理

「最初の目的」の項目でクール・ド・ジェブランはオリエント、アジア、アメリカ、ヨーロッパという単語を列挙し、Peuple（民族）、habitant（住民）という単語も使っている。彼が人種問題を『原始世界』で議論しようとしていたかどうかはわからない。しかし世界を大きく区分する単語を使い、民族や住民を意識していたことは事実である。

V. 『原始世界』第1巻と「アルテミス」について

ネルヴァルの『幻想詩篇』のひとつが「アルテミス」ARTÉMIS である。この詩の冒頭を引用してみよう。

ARTÉMIS

La Treizième revient... C'est encor la première ;
ET c'est toujours la seule, - ou c'est la seule moment:
Car es-tu reine, ô toi! la première ou dernière?
Es-tu roi, toi le seul ou le dernier amant?...⁽¹²⁾

アルテミス

13番目の女性が帰ってくる。それはまた1番目
そしてそれは唯一の女、または唯一の瞬間
というもお前は王妃か、最初なのか最後なのか

そしてお前は王なのか、唯一または最後の愛人か?...⁽¹³⁾

この詩の題名の解釈について旧プレイヤッド版の編者のひとりであり、ネルヴァルの作品を神秘思想的な観点から解釈を行ったジャン・リッシェ氏 Jean Richer はその著作『ジェラルム・ド・ネルヴァルと秘教的学説』の中でクール・ド・ジェブランの『原始世界』の1巻の一部である *Allégories orientales* の51ページにアルテミスの語源に関する記述があることを指摘している⁽¹⁴⁾。クール・ド・ジェブランの『原始世界』のその箇所を引用してみよう。

ARTEMIS, seul nom de Diane en Grec, composé d'AR ou ART, Terre; de TEM, Loi, règle; mot dont on a fait THEMIS, Déesse de la Justice; et de ID, tems. AR-TEMISE signifie donc celle qui est la REGLE des TEMS et de la TERRE.⁽¹⁵⁾

アルテミスはディアーンのギリシャ語での唯一の名で、大地を表す AR または ART 法や規則を表す TEM, そこから公正の女神である THÉMIS を成す言葉, 時間を表す ID で構成されている。AR-TEMISE は時間と大地の法則の女神を意味している。

この解釈自体が正しいかどうかを判断することはむずかしいと考えられる。ここで言えることはネルヴァルが明らかにクール・ド・ジェブランの『原始世界』の記述に影響を受けてアルテミスと時を結びつけたと推論できることである。

V. 『原始世界』第8巻について

『原始世界』8巻「種々の小論文」の巻末にタロットカードの図版が掲載されている。この中の17番が星を表している⁽¹⁶⁾。『原始世界』だけがタロットカードの図版を紹介しているわけではない。しかしこの書物の全体的な内容から察するに、ネルヴァルがこのタロットカード、特に17番の星を表す絵に注目した可能性は高い。

彼の最後の作品『オーレリア』第1部8章に次のような場面が描かれている。

Trois des Eloïm s'étaient réfugiés sur la cime la plus haute des montagnes d'Afrique. Un combat se livra entre eux. Ici ma mémoire se trouble, et je ne sais quel fut le résultat de cette lutte suprême. Seulement je vois encore debout, sur un pic baigné des eaux, une femme abandonnée par eux, qui crie les cheveux épars, se débattant contre la mort. Ses accents plaintifs dominaient le bruit des eaux... Fut-elle sauvée? je l'ignore. Les dieux, ses frères, l'avaient condamnée; mais au-dessus de sa tête brillait l'Étoile du soir, qui versaient sur son front des rayons enflammés.⁽¹⁷⁾

エロイムのうち3人はアフリカのうち最も高い頂に避難した。彼らの間で戦いが始った。ここで私の記憶が乱れ、その崇高な戦いの結果がどうであったかはわからない。ただし洪水に侵された峰の上に彼らに見捨てられた一人の女性が立ち上がり、死に抗いつつ髪を振り乱して叫ぶ姿が私にはまだ見える。その嘆き声が水音を圧倒して鳴り響いた。彼女は救い出されたのか？ わからない。彼女の兄弟である神々は彼女を罰したのだ。しかし彼女の頭上には宵の明星が輝き、その額に燃え立つ光を注いでいた⁽¹⁸⁾。

『原始世界』に収録されたタロットカードの17番「星」の図版は裸体の女性が二つの甕から水を流し、頭上には大きな星がひとつ、小さな星が7つ描かれている。その他には植物らしきものが描かれている⁽¹⁹⁾。『原始世界』の図版だけが『オーレリア』に影響を与えたとは言えないかもしれないが、ネルヴァルの『オーレリア』の描写に何らかの影響を与えたと言っても間違いではないと考えられる。

VI. 結論

本論文で述べたようにネルヴァルが愛読したとされるクール・ド・ジェブラン『原始世界』はあまりに膨大であるのでその全貌を論じるまでには至っていない。まず本論で紹介したガリマール社のプレイヤッド版3巻の巻末の索引、筑摩書房の旧『ネルヴァル全集』3巻の巻末の索引及びジャン・リッシュエの研究書を参考にして、『原始世界』を検討した。ネルヴァルがこの膨大な書物をどこまで読んだのかは正確にはわからない点があるが、本論文で論じた部分に関しては影響関係は指摘できると考えられる。

クール・ド・ジェブランの『原始世界』を研究するきっかけはネルヴァルが19世紀前半に流行した視覚芸術のひとつであるディオラマについて1844年9月15日「アルチスト」誌 *Artist* に掲載した記事「ディオラマ、オデオン」《Diorama, Odéon》においてクール・ド・ジェブランが言及されているからである⁽²⁰⁾。ネルヴァルがディオラマを見て、その思想的な背景を論じているこの記事には多くの神秘思想家の著作や文学作品が列挙されている。その中でもクール・ド・ジェブランは、ネルヴァルが強い関心を抱いた聖書の「エノクの町」や「エロイム」(神々)と関連付けて言及されているので大変重要である。

本論文において『原始世界』の章がどのように構成されているかを述べたが、クール・ド・ジェブランは言語に対して関心を持ち、それに多くのページを割いている。特に原始言語の研究が中心課題だったと思われる。現時点で言えることは、クール・ド・ジェブランの大著からネルヴァルは自分が関心のあった部分を切り取って理解し、それを作品に使ったと考えられる。しかしクール・ド・ジェブランが最も関心を持った原始言語に関してネルヴァルは多少作品中に描いていても、主たる興味の中心であったとは言いがたい。

何度も繰り返しになるが、『原始世界』はあまりに膨大な作品であり、また未完の書物である。

『原始世界』とネルヴァルの作品群の関連性を検討するには、まだ研究しなければならない部分が残されている。特に『原始世界』がネルヴァルの『オーレリア』と『パンドラ』にどのような影響を与えたかを具体的に論じることが今後の課題である。

注

- (1) *Grand Dictionnaire universel du XIX^e siècle*, tome 7, Niïmes, Lacour, 1990, pp.386-387. (Réimpression de l'édition de 1866-1876).
- (2) *Grnad Dictionnaire encyclopédique Larousse*, tome 3, Paris, Librairie Larousse, 1982, p.2723.
- (3) *Grand Dictionnaire universel du XIX^e siècle*, p.386 (注1と同じ巻).
- (4) *Grnad Dictionnaire encyclopédique Larousse*, tome 3, p.2722.
- (5) Antoine Court, *Le Patriote français et impartial*, édition critique par Otto H. Selles, Paris, Honoré Champion, 2002. この著作の編者はアントワヌ・クールの子であるクール・ド・ジェブランに関する記述を序文で書いている。編者は本論文執筆時において、アメリカのカルヴァン大学 (Calvin College キリスト教系の大学) に所属している。
- (6) 電子テキストの元の書籍の書誌事項は次の通りである。Antoine Court de Géblin, *Monde primitif analysé et compare avec le monde moderne considéré dans son génie allégorique et dans les allégories auxquelles conduisit ce génie*, Paris, 9 vol., Chez l'auteur, 1773-1782. この電子テキストは <http://gallica.bnf.fr> で入手可能である。『原始世界』の電子テキストを引用する際は、本の題名はMPで表し、巻はローマ数字で表すことにする。ただし1巻だけは複数のファイルに分かれているので、巻数を表す数字の次にもうひとつ数字をつけて何番目のファイルであるかがわかるようにする。例えば1巻の1番目のファイルであれば、MP I-1 という略号を使う。ページ数は本に記載されたページ数と電子テキストのファイルのページ数の両方を明記する。
- (7) *Grand Dictionnaire universel du XIX^e siècle*, p.386 (注1と同じ巻).
- (8) Gérard de Nerval, *Œuvres complètes*, tome I, édition publiée sous la direction de Jean Guillaume et de Claude Pichois avec, pour ce volume, la collaboration de Christine Bomboir, Jacques Bony, Michel Brix, Jean Céard, Lieven d'Hulst, Jean-Luc Steinmetz et Jean Ziegler et avec le concours de Pierre Enckell et d'Antonia Fonyi, Paris, Gallimard, coll. 《Bibliothèque de la Pléiade》, 1989, p.1003. 以下ネルヴァルのこの巻を Pl.I と略す。
- (9) Pl.I, p.1860.
- (10) MP I-2, p.77 (電子テキストのファイルでは83ページ)
- (11) MP I-2, p.81 (電子テキストのファイルでは87ページ)
- (12) Gérard de Nerval, *Œuvres complètes*, tome III, édition publiée sous la direction de Jean Guillaume et de Claude Pichois avec, pour ce volume, la collaboration de Jacques Bony, Michel Brix, Lieven d'Hulst, Vincenette Pichois, Jean-Luc Steinmetz, Jean Ziegler et le concours d'Antonia Fonyi, Paris, Gallimard, coll. 《Bibliothèque de la Pléiade》, 1993, p.648. 以下ネルヴァルのこの巻を Pl. III と略す。
- (13) ネルヴァルのこの作品を翻訳する時に『ネルヴァル全集 V 土地の精霊』筑摩書房, 1997年に収録された田村毅訳「幻想詩篇」を参考にした。また旧版『ネルヴァル全集 I』筑摩書房, 1975年に収録された中村真一郎, 入沢康夫訳「幻想詩篇」の訳と注も参考にした。
- (14) Jean Richer, *Gérard de Nerval et les doctrines ésotériques*, Paris, Le Griffon d'or, 1947, pp.117-118.

この著作の中でクール・ド・ジェブランの『原始世界』が引用されているが、大文字、小文字、句読点などがかなり間違っている。

- (15) MP I-3, p.51 (電子テキストのファイルでは59ページ) クール・ド・ジェブランの『原始世界』のごく一部の校訂版として次の書物を挙げるができる。Anne-Marie Mercier-Faivre, *Un supplément à «L'Encyclopédie»: Le «Monde primitif» d'Antoine Court de Géblin, suivi d'une édition du «Génie allégorique et symbolique de l'Antiquité» extrait du «Monde primitif» (1773)*, Paris, Honoré Champion, 1999. この著作の169ページと261ページに ARTEMIS に関する記述がある。
- (16) MP VIII, 巻末 (ページ表示なし, 電子テキストのファイルでは705ページ).
- (17) Pl.III, p.714.
- (18) ネルヴァルのこの作品を翻訳する時に『ネルヴァル全集 VI 夢と狂気』筑摩書房, 2003年に収録された田村毅 訳「オーレリア あるいは夢と人生」を参考にした。また旧版『ネルヴァル全集Ⅲ』筑摩書房, 1976年に収録された佐藤正彰 訳「オーレリア」と『世界文学全集 — 73 ネルヴァル/ ロートレアモン』講談社, 1978年に収録された稲生永訳「オーレリア または 夢と人生」の日本語訳及び注を参考にした。
- (19) タロットカードの17番「希望」の図版は Paul Marteau, *Le Tarot de Marseille*, Paris, Arts et métiers graphiques, 1984, p.73 の17番「星」の図版は『原始世界』の図版と内容がよく似ている。つまり裸体の女性が川に二つの甕から水を流している。大きな星がひとつ, 小さな星は7つ描かれている。背景に植物と鳥が描かれている。カラーで掲載されているので, 非常に鮮明である。また *Les Tarots*, libre adaptation en français par Jean-Marie Lhote de l'ouvrage original anglais THE TAROT, How to use and interpret the cards de Brian Innes, Paris, Editions Atlas, 1978, p.51 に各種のタロットカードの17番「希望」の図版が掲載されている。
- (20) Pl I, pp.840-843.

付記：本研究は平成17年度独立行政法人 日本学術振興会 科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号 16520196 「ネルヴァルにおけるディオラマの思想的背景」研究代表者 間瀬玲子）により遂行した研究の一部を公表したものである。